

少連協ニュース

発行所 / 足立区少年団体連合協議会

〒 120-8510 東京都足立区中央本町 1-17-1 足立区役所
青少年課 青少年事業係
TEL 03-3880-5275 <http://www.a-shorenyo.jp>

発行人 山本 輝夫
編集 調査広報部
鈴木(春) 大関 川田 小澤
田中 小野田 市川 高橋
川下 山岸 辻村 南部 岩井



▲ A - フェスタでのストラックアウト



▲ スキルアップキャンプの参加メンバー



▲ ドッチビー大会での熱戦



足立区
少年団体連合協議会会長 山本 輝夫

利他が徳と価値を生み出す

2月11日の建国記念日はドッチビー大会が恒例となり、足立区総合スポーツセンターで平成30年度を締めくくる少連協のビックイベントに育ちました。

また、ジュニアリーダー研修会に始まり育成会入門講座・子ども会育成者セミナー・ジュニアリーダー研修会わくわく遊び塾キャンプ・Aフェスタブースの様々な春夏秋冬の折々に展開する事業は大きな目的があり進化しています。

困難を乗り越え行動を共有する志は感動と悦びに変わります。子どもと関わることで学び、価値と意義を見出す瞬間は携わる者しか得られない快感かもしれません。

人の心を繋ぐ安心と信頼は更に強くなります。足立区を限なくネットワークが広がります。子どものために努力と労力を惜しまず、大人が楽しく行動することは子どもにも興味を持たせ、思考と発想を育むことでしょう。小さい頃から地域に関わる、社会を学ぶ循環は利他が徳や価値を生み出すシナジー効果に大いに期待したいです。

目次

山本会長あいさつ……………	1	子ども会安全啓発
Aーフェスタ……………	2	中級指導者養成講習会
子ども会へ入ろう……………	2	ドッチビー大会……………
都子連育成研究協議会……………	3	全子連育成中央会議……………
バス日帰り研修会……………	3	渡邊青少年課長
スキルアップキャンプ……………	4	インタビュー……………
新年会……………	5	ジュニアリーダー……………

A-Festa

2018

あだち区民まつり



▲電球ジュース



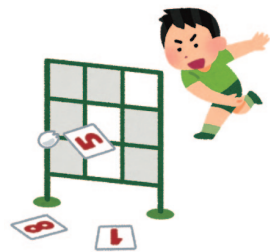
▲～笑顔あふれる～ふわふわトランポリン

少連協は行事を通して、多くの皆さんとコミュニケーションをとり、人と人との関わりの大切さと共感できる喜びをどんどん作り出し、足立の子どもたちを明るく素

直な子どもに育んで行くことに努めていきます。

毎年、多くの人で賑わう「あだち区民まつり」A・フェスタが、10月6日、荒川河川敷「虹の広場」で晴天のもと開かれました。例年ならば、2日間の開催ですが、翌7日が荒天に見舞われるとの予想から、1日限りの開催となりました。

少連協では、ストラックアウト、ふわふわトランポリンなどの各コーナーで来場者の呼び込みに汗をかきながらも、スタッフは子どもたちと一緒に楽しんでいました。また、ジュニアリーダークラブを中心に来店したスーパーボールすくいや電球ジュース、ステイックワッフルの販売コーナーでも大きな声での売り込みとあちらこちらで明るい笑顔がこぼれていました。



▲～楽しいよ～出店ブースへの呼びこみ

直な子どもに育んで行くことに努めていきます。

(副会長 鈴木健治)



▲「子ども会に入ろう」リーフレット

「子ども会へ入ろう」のリーフレットですので、地域で参考・活用したい皆さんは、ぜひ少連協までお問合せください。

(調査広報部長 大関英広)

少連協は、区の助言のもと、子どもたちが地元の子ども会や地域の町会行事などへ積極的に参加し、異年齢のお友だちの中で、他者の存在と自分を認めながら、様々な遊びや学びを体験し、心の強い子どもに成長して欲しいと事業を推進しています。保護者向けの「子ども会へ入ろう」の啓発用リーフレットが新たに出来上がりましたので、区内小学校を通して、新一年生へ配付します。

「子ども会に入ろう」リーフレットができました

第48回東京都子ども会 育成研究協議会開催

10月28日、葛飾区シンフォニーヒルズにて東京都子ども会連合会・全国子ども会連合会主催で開催されました。

足立区からはジュニアリーダーを含め18名が参加し、開会式の後表彰式において、足立区の竹島幸聖さん、五味測彰さん、大山千恵子さんが指導者・育成者として表彰されました。

研修に入り、まずマリ・クリス

ティーンさんの異文化体験のテーマでの基調講演があり、中学生や高校生たちとグループを作り、それぞれが体験談等を紹介し、現在の違いなどを話し合いました。

午後は各分科会に分かれてグループワークを行い、ジュニアリーダーは各地域のリーダーたちとレクリエーションの手法について研修しました。

今回の研究協議会は限られた短い時間中ですが、普段知ることの無い違う地域の方々との触れ合いができ、良い学習の機会となりました。(副会長 鈴木春男)

バス日帰り研修会 群馬県川場村

平成30年11月18日(日)、少連協総務部主催の「日帰り研修旅行」が、青少年課渡邊課長にも参加をいただき、総勢47名で実施となりました。

今回の研修先は群馬県川場村です。まず、車中で鹿浜育成部長が、30年度ジュニアリーダー宿泊キャンプについて、DVDを見ながら巧みな話術による解説がありました

た。昨年度より約50名の参加者が増え、子ども達やスタッフの活動等、キャンプに参加していない方でも細かな活動やスタッフの苦勞などの様子が分かるような内容でした。31年度も宿泊キャンプには大勢の参加者が見込まれますが、車内の皆さんは宿泊キャンプを通じて子どもたちと触れ合い、色々な体験をしてみたいなりました。

さて、目的地の川場村にある原田農園では、「リング狩り」を体験しました。美味しそうなリングの見分け方や上手にもぎ取る方法などを体験学習しました。

次に、明治40年創業の「我が国が、誉れ高く、光輝きますように」と「誉国光」と命名された酒を造る、酒造を見学しました。

関東で唯一の名誉賞を受賞した、全国でも数蔵しか成し得なかった酒蔵です。

その後、古い歴史と文化に支え



▲古民家の前で

られた川場村の、のどかな田園風景の中、「悠湯里庵」での昼休みとなりました。視界いっぱい広がる、かやぶき屋根を見渡せば、懐かしい日本の原風景に出会えたような心まで満腹に癒されたひと時を過ごしました。

このように、車中での楽しい参加者相互の交流も含め、バス日帰り研修は、少連協事業を行っていく上でのエネルギーとなるものだと思います。

(総務部長 林俊二)



▲主催者と受賞者の皆さん

スキルアップキャンプ

千利休の「守破離」の精神で



▲寒い朝のラジオ体操「寒さに負けない子どもたち」

このことは、同じプログラムの何度もなぞっていると、だんだん果実（成果）が小さくなっていきます。外に踏み出すことがないままであると、同じ行事が、だんだん面白みがなくなっていくます。それはキャンプでも同じです。実行委員にとって杵から踏み出ることは非常に難しいハードだったでしょう。今までと同様に企画していれば合格点ももらえるとともに、十分楽しめるキャンプファイヤーができるのに、取って新しいゲームを取り入れるリスクを背

4回目となるスキルアップキャンプが平成30年12月23日から1泊2日で、水海道あすなるの里（茨城県）で行われました。
スキルアップキャンプは、夏のジュニアリーダー宿泊キャンプが

終わると、ジュニアリーダークラブの有志が実行委員会を立ち上げ、この1泊2日のキャンプのプログラムを準備します。今回、私が実行委員会に課したことは、以前からのアクティビティを避け、新しい課題に挑戦することでした。同時に私たち育成部員にも課せられたものと受け止めていきます。

負わなければいけないのですから。しかし、新しい課題に挑戦すれば、発見があり、新しい出会いも生まれる成果も知って欲しいのです。彼らにはジュニアのOBさんたちにアドバイスを求めなさいと伝えました。
千利休の言葉に「守り尽くして破るとも離るとても本を忘るな」
があります。
「守」はすべてにおける基礎を教わる期間
「破」は自立を促す大切な期間
「離」自分で作り出す独自の世界

このスキルアップキャンプが「守」と「破」の世界を大切にする場所にできれば最高です。基礎を忠実に守り確実に身に着け、良いものを取り入れ自分の型にすることで既存の杵からはみ出し、いざれ独自の表現する時期が来るのを楽しみに待つております。ただし、千利休が最後に言った「本（基礎）は忘れるな」の精神でいきますよう。

（育成部長 鹿浜安弘）



▲キャンプファイヤー



▲食事の準備「美味しくできるかな？」



▲区歌の斉唱

平成31年1月11日、勤労福祉会館（綾瀬ブルミエ）において少連協新年会が開催されました。新年会は開会の冒頭、区歌「わがまち足立」を小野田みよ子書記、馬場信男常任理事の指揮のもと、120名の参加者が心を合わせて斉唱し、足立の子どもたちのために

新年会を開催 広がる少連協の輪



▲近藤やよい区長・山本輝夫会長・定野司教育長

活動していこうとの思いが伝わりました。その後、山本輝夫会長の力強い年頭の挨拶があり、続いて近藤やよい足立区長からは、財政支援、かねだ正足立区議会議長からは、行政と連携したバックアップのご祝辞をいただきました。足立区の子どもたちを支えるご来賓の皆様方の紹介があり、地域における子どもたちの育成や活動などの話題で和やかに懇談して交流の輪を深

めました。

また、お楽しみビンゴ大会が行われ、鉢植えのお花や家庭用品、文具用品などの景品に参加者全員が童心に戻り楽しい時間を過ごしました。

新年会の結びに、恒例の「青い山脈」を参加者全員が手を繋ぎ、大きな一つの輪を作り大合唱しました。その声は少連協の輪がさらに広がったようであり、子どもたちの健やかな成長のために活動する今年一年のスタートとなりました。
(総務部長 林俊二)

子ども会安全啓発 中級指導者養成講習会

1月19・20日に関東甲信越静地区主催の「子ども会安全啓発中級指導者養成講習会」が国立オリンピックセンターで開催されました。各県からは若き21歳のリーダーから75歳のベテランまで、多彩な20名の参加がありました。足立区からは、鈴木春男副会長、鹿浜育成部長、内山美保の3名が受講しました。



▲グループ討議内容の発表

講習会は「安全について」「リスクとハザード」「ヒューマンエラー」「子ども会裁判」「子ども会KYTの進め方」「防災」など、11のセッションで構成されています。グループメンバーが交代でリーダーとなり、講義の進め方、プレゼンテーション、アイスブレイク手法について学びました。今後、地域や子ども会で子ども会安全啓発を基本とした安全啓発普及活動ができる「子ども会安全啓発初級指導者」を養成するための中級指導者講習会の修了証をいただくことができました。
(内山美保)

歓声につつまれたドッチビー大会

2月11日、第11回ドッチビー大会が足立区総合スポーツセンターで開催されました。

第1回Lソフィア(梅島)での狭い体育館における選手誘導や試合進行に苦勞した頃から較べると、会場は広く、多くのスタッフも回を重ねた手際よいフットワークから22チームの選手の皆さんも思う存分力を発揮できたことと感じています。



▲開会式で選手宣誓

大会はオープニングに「白百合チアリーディングクラブ・エンジエルス」が活気に満ちたアクロバティックな演技を披露し、熱き応援が会場内に送られ試合開始となりました。

試合は、年々参加チームが増え、小・中学生の部が5チーム、小学生の部が17チームで、出場選手数が328人に上り、3コートともに白熱したプレーが見られ、コートサイドやギャラリイから歓声が沸き上がっていました。

結果は別表のとおりで、各チームともに年々技術が向上し、小・中の部は綾瀬キッズチーム、小学生の部はカバチジュニアチームが優勝となりました。

なお、今大会においても、羽住会長の下、スポーツ推進委員会の皆様には、大会運営をはじめ、各コートでの審判にお力添えをいただき、大会が円滑に進行し盛会に終えられました。

(事業研修部部长 多島三好)



▲試合中の真剣な面持ち・構え



▲優勝チーム(小・中学生の部 綾瀬キッズ)

カバチJrにインタビュー



▲優勝チーム(小学生の部 カバチ Jr)

- Q 優勝した今の気持ちは?
- A めちゃうれしい。
- Q 3連覇だ。来年は4連覇するぞ!
- A 練習は楽しかった?
- Q 練習は楽しかった。
- Q すごい楽しかった。
- A 相手に当たった時は、気持ち良かった。
- Q 何回ぐらい練習しましたか?
- A 2カ月間、週1回位のペースでした。
- Q 練習で辛かったことは?
- A パスが上手いかなかったとき
- Q ラインを踏んでしまったとき
- A コーチが厳しかったけど、優勝するといことがあるよ!と言われたから頑張った
- Q 来年度も参加したいですか?
- A 絶対、参加するよ!
- Q 6年だから小中チームで参加しますか?



小学生の部		結 果 発 表	小・中学生の部	
順位	チーム名		順位	チーム名
1位	カバチJr		1位	綾瀬キッズ
2位	加平キッズ		2位	カバチ
3位	花保町会子供会	3位	五色さくら	



▲分科会の様子

2月23日から25日まで石川県金沢市で北は北海道から南は沖縄まで、650人の参加者により、全国子ども会育成中央会議・研究大会が開催されました。今回のテーマは「明日の子ども会をより輝かせるために」で、子ども会の将来像を考え、子ども会支援のネットワークづくりへの取り組みがねらいでした。

はじめの記念講演では、芥川賞作家の本谷有希子氏が「これまでの出来事、それよりもこれから」と題して、幼少期の思い出から演劇と執筆活動の経験談まで、3歳

全国子ども会育成中央会議・研究大会が開かれる

の子の育てを織り交ぜて語られました。ご自身を取り巻く人たちの中で我が道を歩いてこられた力強さが印象に残りました。

2日目、金沢市教育委員の大島淳光氏の記念講演は、「教育改革と社会が求める人材」についてでした。主に、「なぜ今、教育が変わろうとしているのか」、「どのように教育が変わるのか」を講演され、結びに「主体的に課題を見つめ、チームで協力しながら解決する」「多様性を尊重し、異文化を受け入れながら組織力を高める」などの重要性を力説されました。多くの聴講者は頷かれ、これらを再認識していました。

また、「子ども会加入率の向上を目指して」や「育成者・指導者のスキルアップについて」など九分科会において、各テーマにそった事例発表と質疑応答及びグループワーキングを行いました。これを通して、あらためて課題の認識とその解決策などを探り、全体会での各分科会の発表により、参加者は幅の広い事例や活動内容を手していました。

足立区からは山本輝夫少連協会長をはじめ6人の役員が参加し、それぞれの活動の場を離れ、この機会に子ども会へのアプローチの仕方や事業のあり方などを、再認識することができたとの感想が寄せられました。また、全国の各子ども会関係者との意見・情報交換ができ、今後の活動の上で大いに参考になったとの声もありました。

なお、地域子ども会活動を長年支えてこられたとして、足立区の鈴木春男扇地少協会会長が全国子ども会連合会から表彰され、奥様には感謝状が贈呈されました。

(調査広報部長 大関英広)



▲表彰された鈴木晴男副会長



地域の力を借りたい
青少年課長にインタビュー

2月13日、足立区役所において渡邊青少年課長から近年の子どもたちに関する思いと区の事業などについてお聞きしました。

Q: 区では「まなび・あそびの体験チャレンジBOOK」を発行し事業を進めています。そのねらいは？

A: 区は平成29年度「第3回子ども健康と生活実態調査」を実施しました。その結果から、地域活動に積極的に参加して体験を積むことの重要性が確認できました。様々な体験を通して、「生きる力



▲インタビューに答える渡邊課長

を育む」「逆境を乗り越える力を培う」情報を提供するための機会や場を提供したいと考えます。そのような理由から、家から外へ出て地域で学ぶために、「まなび・あそびの体験チャレンジBOOK」を発行し推進しました。

Q: 事業の成果は？

A: 様々な施設のイベントを1冊にまとめて見られるようになりました。しかし、今後より見やすいように工夫していく必要があると考えます。

Q: 平成31年度に向けての主な取り組みは？

A: 平成30年はジュニアリーダー宿泊事業が100人予定のところ、150人の参加がありました。少連協の皆さんには嬉しい悲鳴が上がるとともに、準備や実施には大変ご苦労されたかと認識しています。区でも積極的に応援させていただきます。平成31年度は財政面で更なる支援によって、ジュニアリーダー宿泊事業が安全で子どもたちの良い体験場となるよう努めていきたいところです。

Q: 課長からひと言ありますか？

A: 区では青少年行政に関係する組織代表の皆さんと青少年問題協

議会を開催し、学校や地域などにおける子どもたちの現況を知るとともに課題を探り、対策を講じております。その中で、家庭から、一歩出て地域の行事に参加し、第三の大人とふれあうことの重要性が、再認識されましたので、子どもたちには、地域に出て学び、活動してほしいと考えています。私たちは、可能な限り力を尽くしてまいりますので、少連協の皆さん、各地少協の皆さんには、子ども会の活性化のために一層のお力添えをお願いします。

(調査広報部長 大関英広)

ジュニアリーダー研修会
いよいよ始まります！

ジュニアリーダー研修会とは、3回の研修会でジュニアリーダーについて楽しく学ぶ入門講座です。ゲームやダンス、創作活動をしながら、たくさんの方達も作れます。各地域(地区少年団体協議会)ごとに、足立区内の小学校22会場、4月から6月頃に開催し、足立区在住、在学の小学校4年から6年生が対象で、参加費は無料です。

申込みは、4月以降に足立区の小学校から配布されるチラシをご覧の上、各学校にお申込みください。

なお、このジュニアリーダー研修会を修了した5、6年生は、夏のキャンプに参加する資格が得られます。

編集後記



色々な場面で頑張っている子どもたちの姿を、お届けする広報誌を目指して、作成してまいりました。これからも、子どもたちのパワーをもらいながら、元気が出る紙面を作成していきます。

今後とも、皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。

